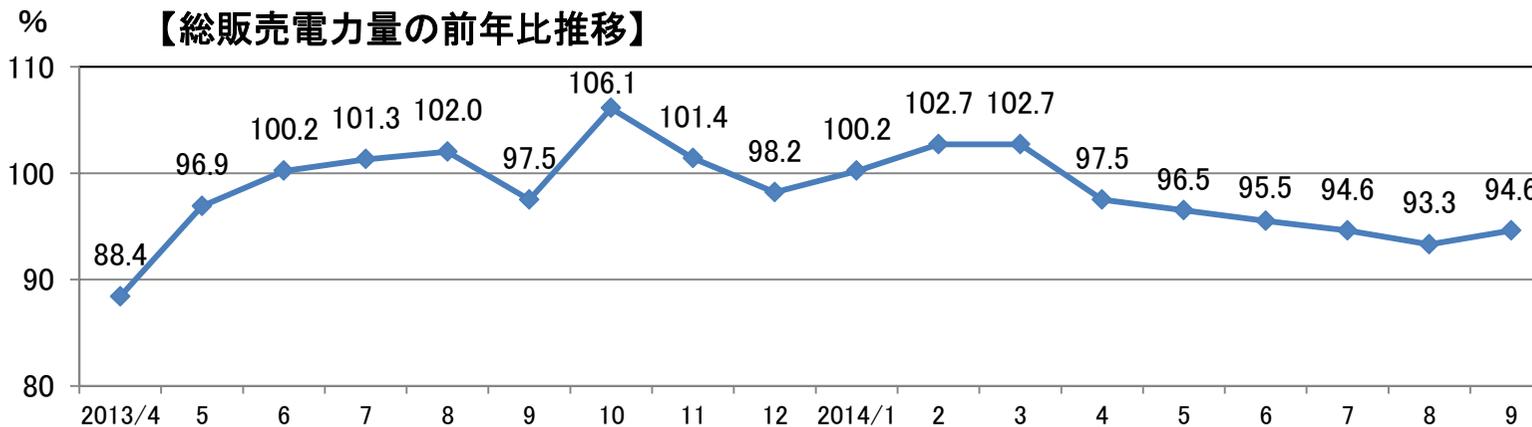
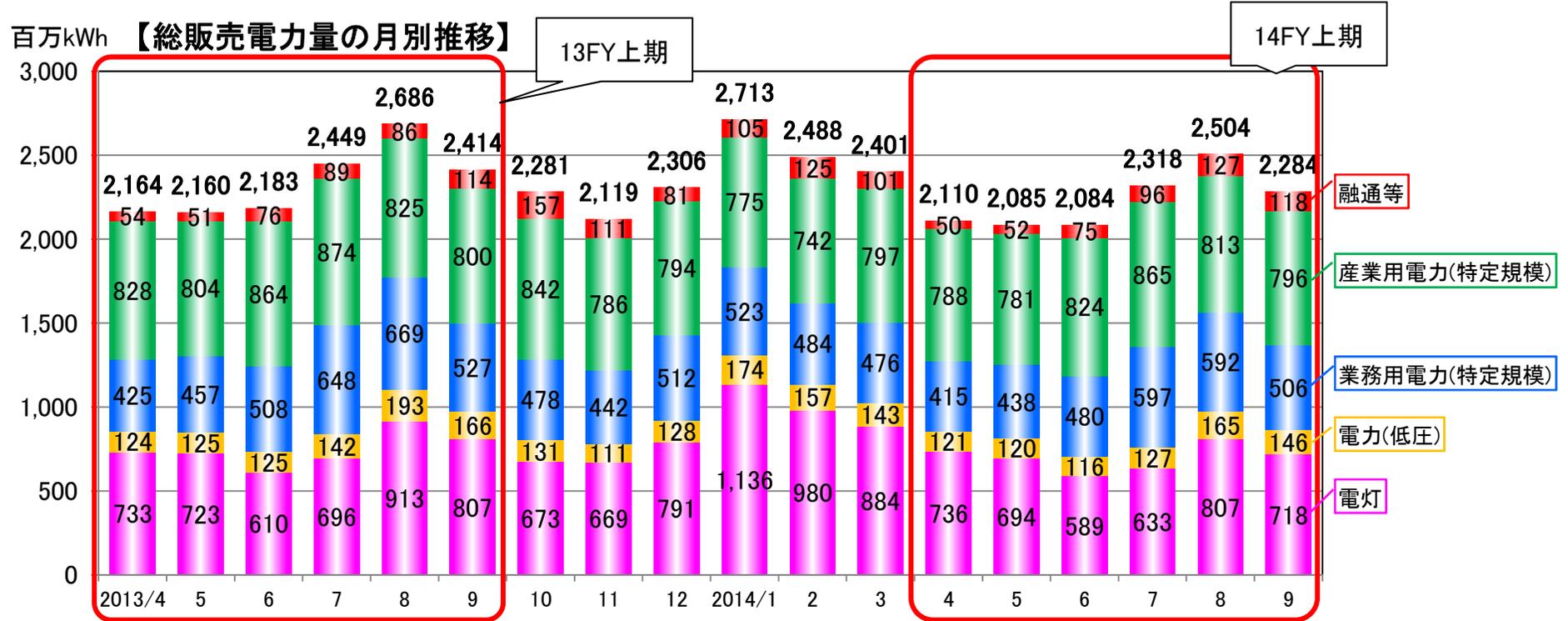
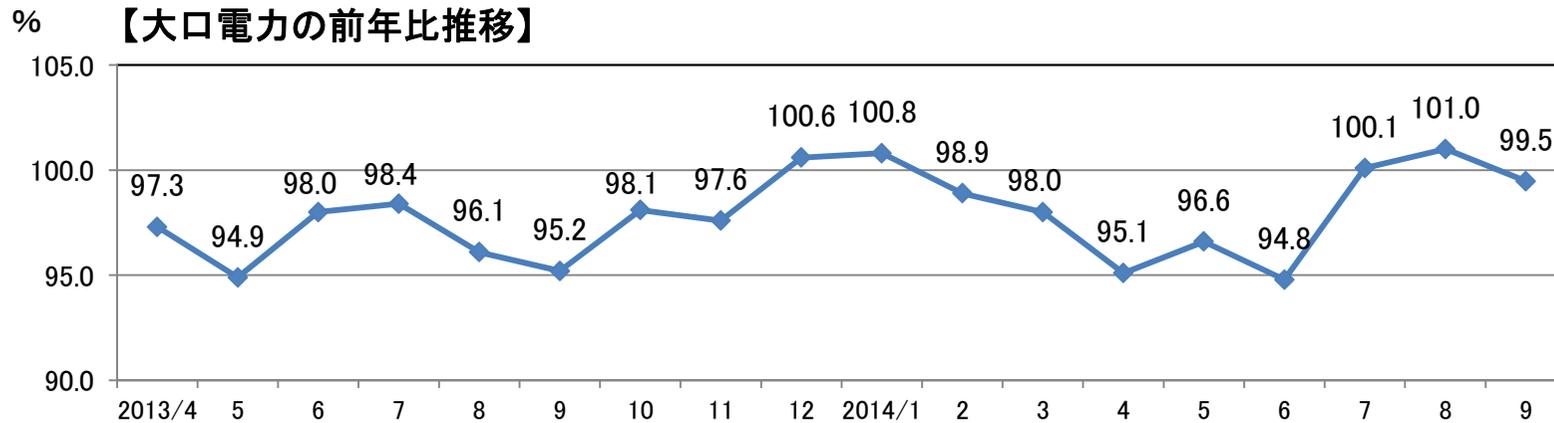
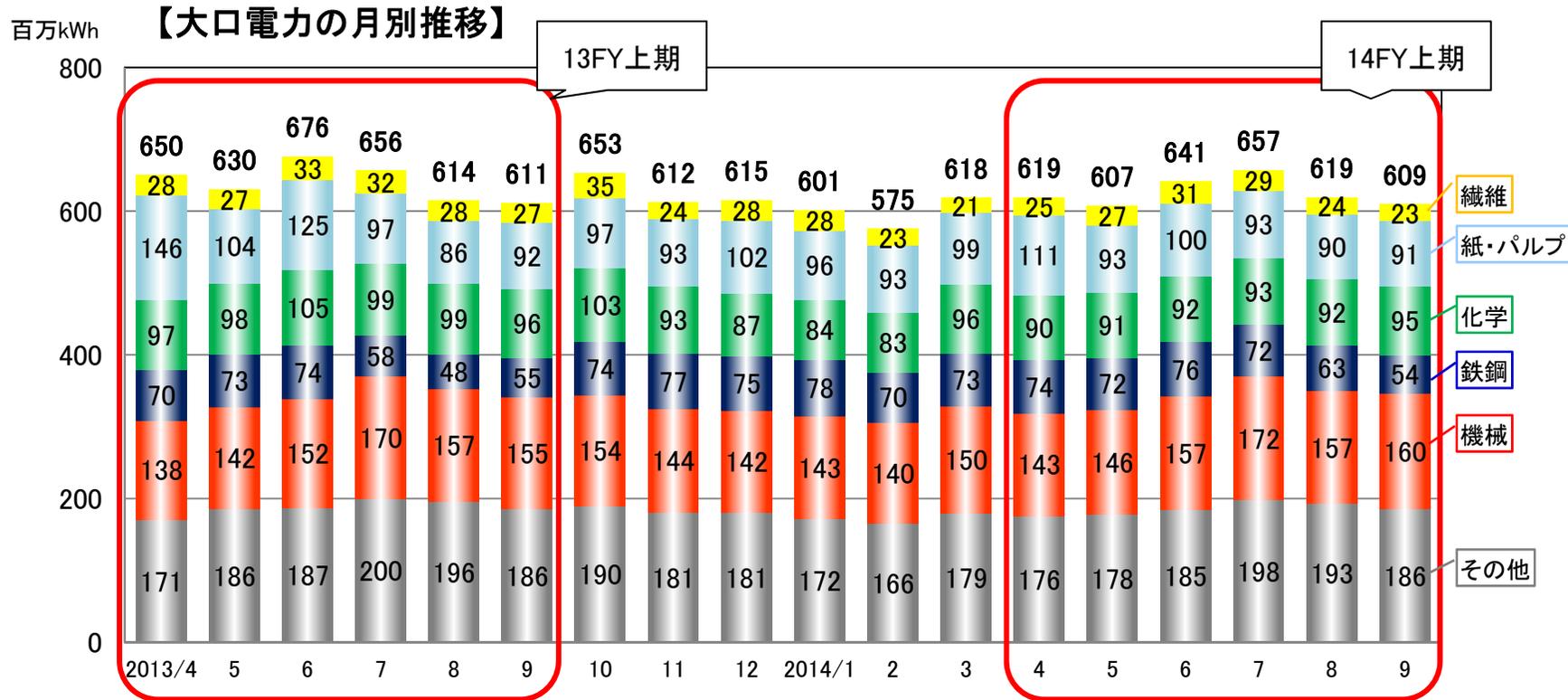


2014年度 第2四半期決算 補足説明資料  
(平成26年度) (4-9月)

2014年10月30日  
四国電力株式会社





## 対前年同期 伸び率

	2013年度					2014年度		
	年度計	1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	3Q (10-12月)	4Q (1-3月)	累計	1Q (4-6月)	2Q (7-9月)
大口電力	▲2.2	▲3.3	▲3.4	▲1.2	▲0.8	▲2.2	▲4.5	0.2
繊維	▲3.4	▲4.7	0.4	▲1.7	▲8.2	▲9.0	▲4.3	▲13.6
紙・パ	▲7.8	▲10.9	▲7.9	▲7.5	▲3.6	▲11.1	▲18.9	▲0.5
化学	▲0.2	1.5	▲0.6	0.9	▲2.9	▲7.0	▲8.8	▲5.2
鉄鋼	2.3	7.2	▲4.8	4.6	0.9	8.7	2.7	16.8
機械	▲0.3	▲5.7	▲2.1	1.7	5.8	2.2	3.1	1.4
その他	▲2.9	▲1.6	▲3.9	▲3.2	▲2.8	▲0.8	▲1.3	▲0.3

(%)

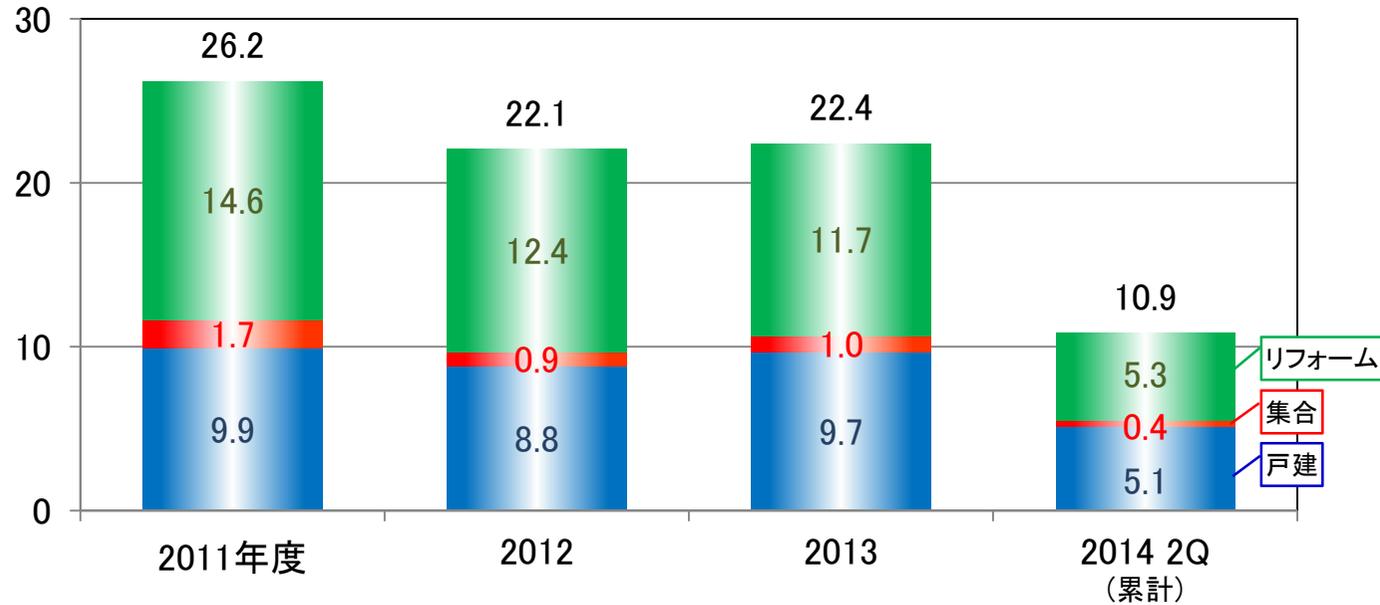
一部お客様の  
生産品目減少など

一部お客様の  
生産調整など

一部お客様の  
前年生産設備点検  
の反動など

## 電化住宅採用戸数

(千戸)



(内訳) 電化採用戸数

(単位：千戸)

	2014年度 2Q(累計)		2013年度 2Q(累計)
		前年同期比	
新築電化	5.5	10.2%	5.0
戸建	5.1	11.4%	4.6
集合	0.4	▲ 3.8%	0.4
リフォーム	5.3	▲ 11.5%	6.0
計	10.9	▲ 1.7%	11.0

## 化石燃料消費実績

	2014年度2Q (A)	2013年度2Q (B)	前年差 (A-B)	(参考) 2013年度実績
石炭 (t)	163.2万	160.3万	2.9万	307.2万
重油 (kl)	35.9万	44.5万	▲8.6万	90.4万
原油 (kl)	2.5万	16.1万	▲13.6万	27.2万
LNG (t)	15.4万	16.6万	▲1.2万	37.5万

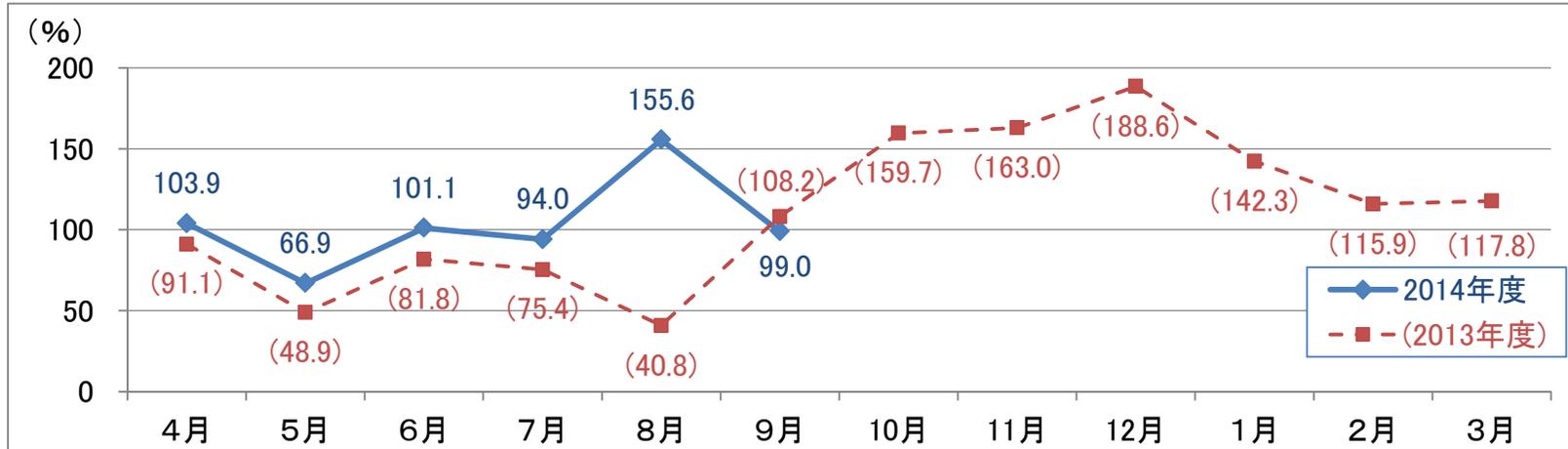
※数値は累計

## 燃料諸元

	2014年度2Q (A)	2013年度2Q (B)	前年差 (A-B)	(参考) 2013年度実績
石炭通関CIF (\$/t)	97	111	▲14	108
原油通関CIF (\$/b)	110	108	2	110
LNG通関CIF (\$/t)	839	833	6	836
為替レート (円/\$)	103	99	4	100

※数値は4～9月の平均値

## 出水率の推移



## 主要諸元の需給関連費への影響額等

(億円)

	2014年度 2Q (累計)
原油CIF (1\$/b)	3
石炭CIF (1\$/t)	3
為替レート (1円/\$)	7
原子力利用率 (1%)	8
出水率 (1%)	2
<b>燃調期ずれ影響額</b>	<b>20</b>

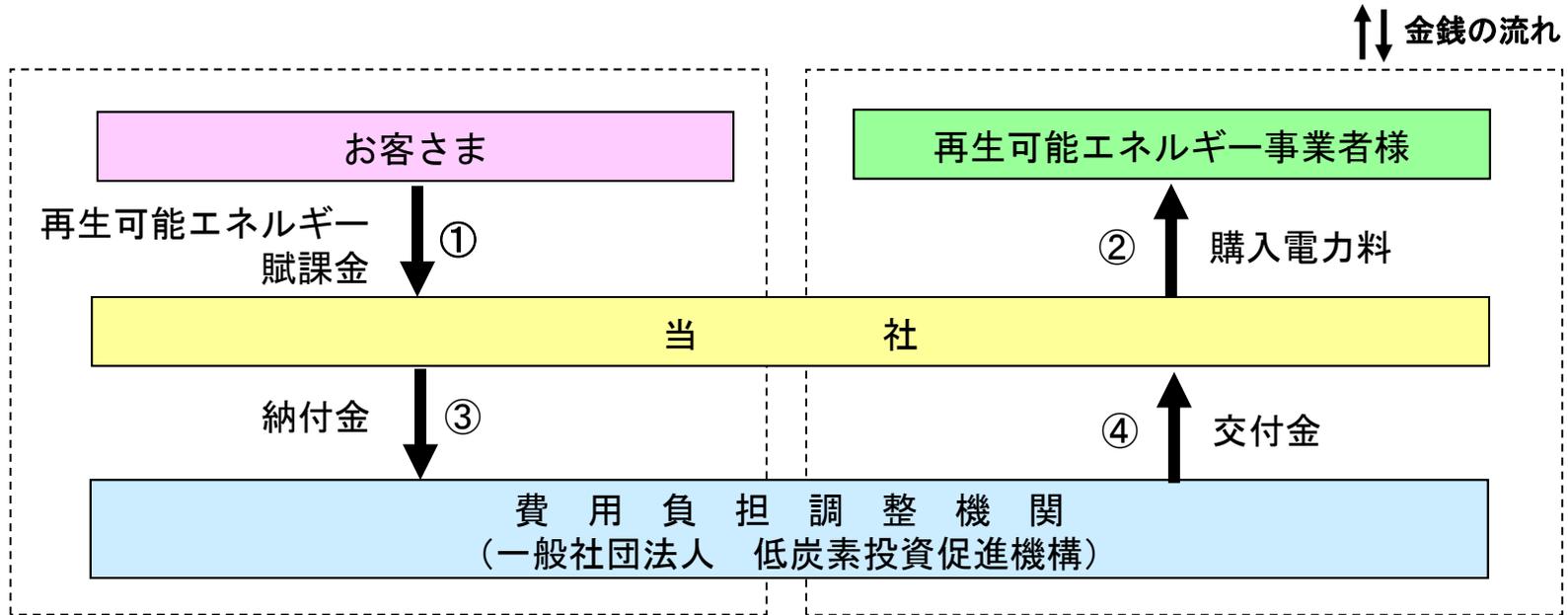
(注1) 左記影響額等は、一定の前提に基づいて算定した理論値であり、実際の影響は需給状況等によって変動することがある。

(注2) 燃調期ずれ影響額は、実際の燃料費調整額と燃料価格の適用に遅れが無いと仮定した場合の金額の差額。

（億円）

	2014年度2Q （累計）	（参考） 2013年度
電源	105	331
水力	9	31
火力	39	69
原子力	56	230
送電	20	40
変電	30	55
配電	41	84
その他	7	36
小計	206	548
原子燃料	31	39
電気事業計	238	587
その他の事業	55	169
設備投資額 <sup>※</sup>	293	757

※未実現利益消去前



① 再生可能エネルギー賦課金	78
当社は、お客さまから電気料金の一部（再生エネルギー賦課金）として回収	
③ 納付金	78
費用負担調整機関は、当社から納付金を徴収	

単位：億円

② 購入電力料	239
当社は、再生可能エネルギー事業者様に購入電力料をお支払い	
④ 交付金	192
費用負担調整機関は、当社が買取に要した費用（電気価値分等を控除）を当社に交付	

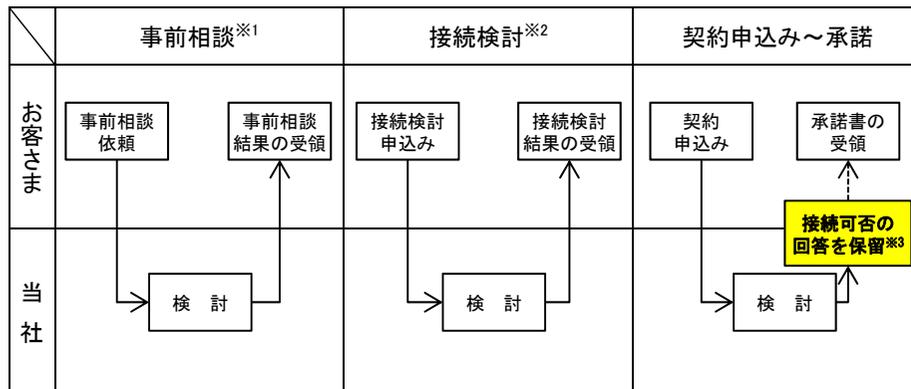
2014年9月30日 プレスリリース

## ○2014年9月末時点の再エネ発電設備の導入状況

	契約申込み前 (接続検討中)	契約申込み済み	接続済み
太陽光	約54万kW	約108万kW	約 92万kW
風 力	—	約 19万kW	約 15万kW
その他	約19万kW	約 2万kW	約 5万kW

※上記のほか、当社より融通送電を行っている関西電力管内の淡路島南部において、接続済みおよび契約申込み済みの太陽光が約11万kW、接続済みの風力が約4万kWある。

## ○10月以降の再エネ発電設備の契約申込みに対する取扱い (2014年9月30日公表済み)



※1 契約申込みのためには必須ではない

※2 高圧以上の場合、契約申込みのためには必須  
低圧の場合、インバータが、電気安全環境研究所(JET)の認証登録品である場合は、接続検討の省略が可能

※3 ただし、住宅用など余剰買取となる10kW未満の太陽光発電設備については、当面の間、回答の保留は行わず、従来どおりの取扱を継続

### 再生可能エネルギー発電設備に対する契約申込みの取扱いについて

平成24年7月の固定価格買取制度の開始以降、当社管内においては、再生可能エネルギー（以下、再エネ）発電設備の導入が進んでおり、特に急速に普及拡大している太陽光発電設備については、当社系統への接続済みおよび契約申込み済みの設備量の合計が、本年8月末時点で、約190万kWとなっております。

また、風力発電設備については、接続量を60万kWと設定し、契約申込みを受付しているところです。

これら再エネ発電設備からの電気の供給量については、気象条件等により出力が変化しますが、昨今の設備導入の状況を踏まえると、自社発電設備等も加えた電気の供給量が、早晚、当社における軽負荷期の需要（注1）を上回り、電力の安定供給に支障を生じるおそれが出てまいりました。

このため当社は、今後、再エネ発電設備の接続可能量について、自社発電設備等の運用方法や導入拡大策などを早急に検討の上、結果を取りまとめることといたしますが、それまでの間の一時的対応として、明日以降、新たに契約申込みを受付する再エネ発電設備（注2）に関する接続可否の回答を、保留させていただきます。（注3）

ただし、住宅用など余剰買取となる10kW未満の太陽光発電設備（注4）については、当面の間、回答の保留は行わず、従来どおりの取扱いを継続いたします。

回答を保留させていただいた契約申込みについては、上記検討結果を取りまとめた後、順次、回答させていただきますが、状況によっては接続できない場合もございますので、あらかじめご了承くださいませよう、お願いいたします。

当社といたしましては、今後とも、電力の安定供給に万全を期してまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

（注1）軽負荷期（5月の休日など、電気のご使用が少ない時期）における需要は、本年5月の実績で250万kW程度となっております。

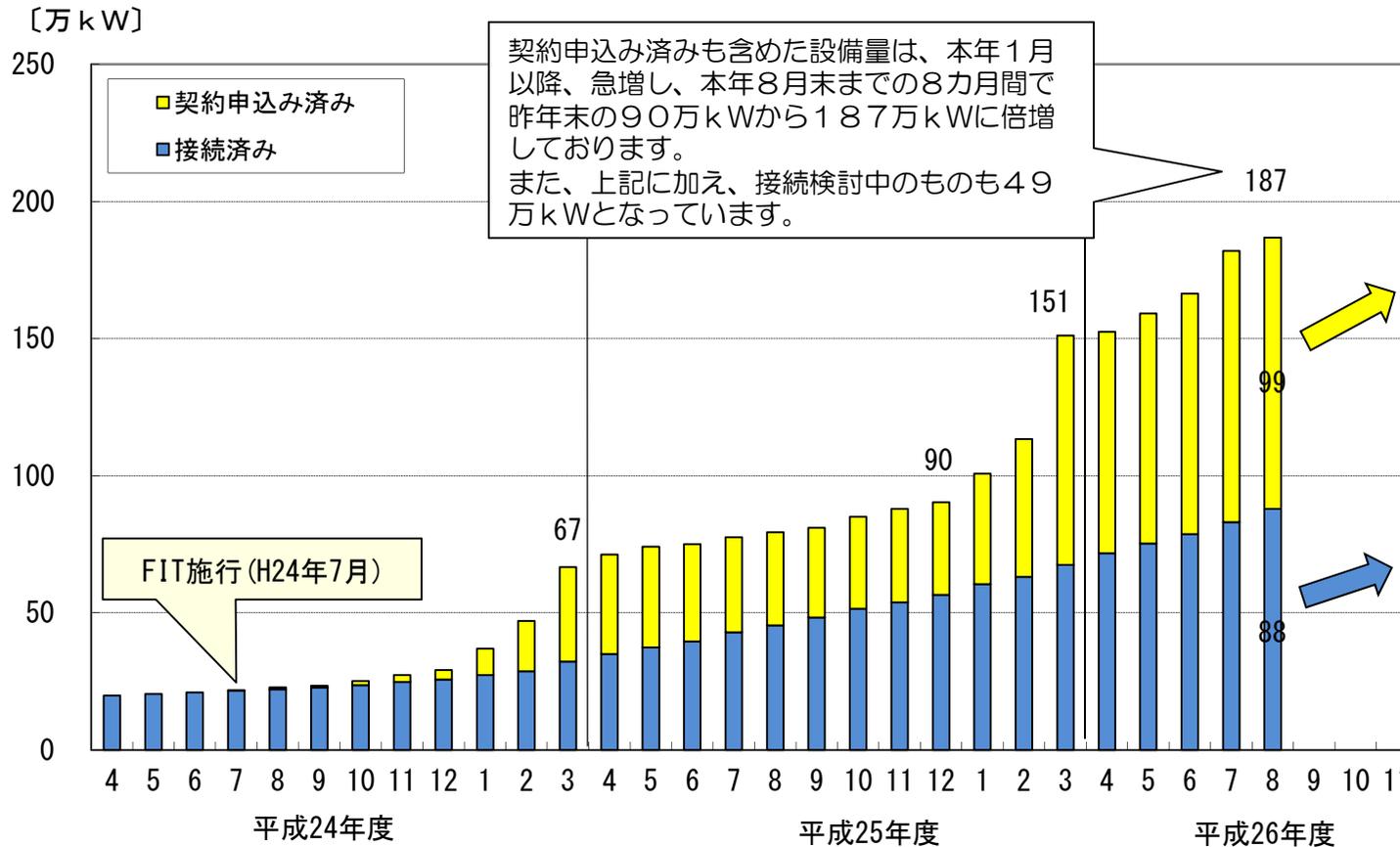
（注2）当社より融通送電を行っている関西電力管内の淡路島南部に接続する場合も含まれます。

（注3）ただし、契約申込みに先立ち実施する接続検討や、事前相談については、引き続き、検討結果を回答いたします。

（注4）国が認定する再エネ発電設備の区分であり、発電された電気を住宅内の電力消費に充て、残った電気を当社系統に流入する配線構造（余剰配線）で、かつ出力が10kW未満の太陽光発電のことを指します。また、当該太陽光発電設備に自家発電設備等（家庭用燃料電池や家庭用ガスコージェネなど）を併設する場合（いわゆるダブル発電）を含みます。

第4回省エネルギー・新エネルギー分科会 新エネルギー小委員会(2014年9月30日)資料より

平成24年7月の固定価格買取制度の開始以降、当社管内においては、再生可能エネルギー(以下、再エネ)発電設備の導入が進んでおり、特に急速に普及拡大している太陽光発電については、当社系統への接続済みおよび契約申込み済みの設備量が、本年8月末時点で、約190万kWとなっております。

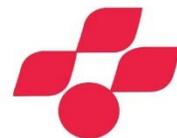


※上記のほか、当社より融通送電を行っている関西電力管内の淡路島南部において、接続済みおよび契約申込み済みの太陽光発電設備が約11万kWあります。

### おことわり

本資料に含まれている将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。実際の業績等につきましては、様々な要素により、記載されている見通し等とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

**しあわせのチカラになりたい。**



**四国電力株式会社**

YONDEN